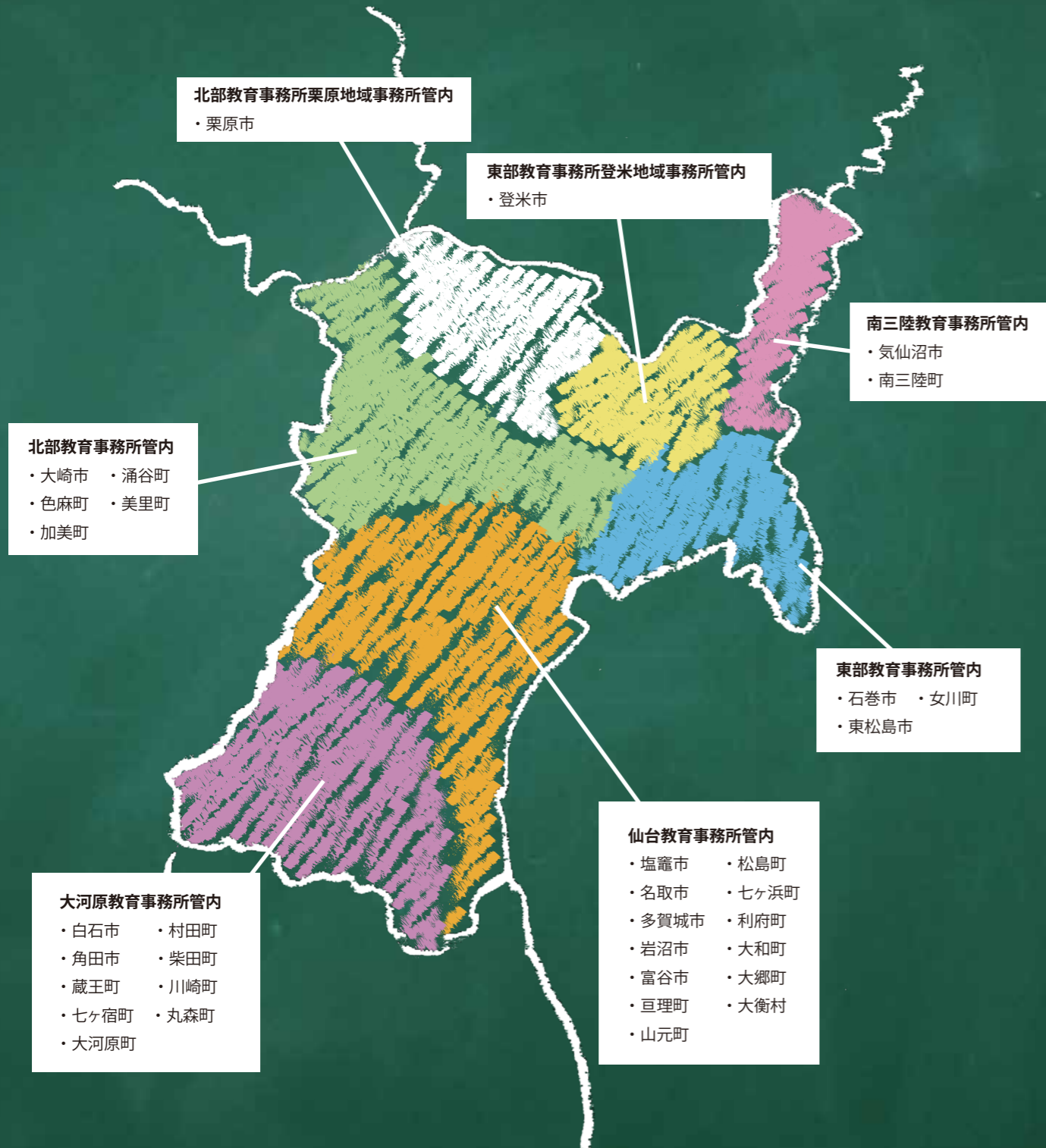


宮城県内7教育事務所担当市町村別略図

「小学校」「中学校」「中学校・高等学校(配属が中学校の場合)」で受験された方は、以下の7つの教育事務所管内の小学校・中学校に配置されます。



宮城の先生に
なりましたか!!

平成29年度実施
平成30年度
宮城県公立学校
教員募集案内

宮城県教育委員会

問合せ先
宮城県教育庁教職員課

〒980-8423 宮城県仙台市青葉区本町三丁目8番1号 Tel (022)-211-3637
<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/ky-teacher/>

このパンフレットは、東北工業大学ライフデザイン学部クリエイティブデザイン学科篠原研究室の協力を得て編集しました。
編集スタッフ：佐々木美律／佐瀬夏美／蛇石可奈子（篠原研究室HP <http://www.shinolab.com/>）



篠原研究室メンバーと県知事・教育長のスナップ

知事、教育を語る。

平成30年度(平成29年度実施)教員採用候補者選考から宮城県独自の選考が始まります。

宮城県の教員として働く魅力とは?

知事と教育長が、教育への思いを語り合いました。

— 県独自の採用選考に対する受け止めと期待

教育長:知事は宮城の教育について何を期待されていますか。

知事:東日本大震災から5年が経過し、特に、被災した方々の心のケアの面で、教育や福祉の果たす役割は大変重要だと考えています。また学校・家庭・地域の連携も重要です。教員のみならず、多様な地域人材や専門人材が子どもに関わりながら、日々の課題に対応してほしいと思っています。

教育長:その際、地域の方々と思いを一つにして動ける教員が必要です。来年度から宮城県と仙台市の教員採用がそれぞれ独自に行われることになるのですが、この機会に、小学校の教員採用において「地域採用枠」を設けて、地域に根ざした教育に尽力してくれる教員を採用したいと考えています。

知事:その「地域採用枠」とはどういったイメージですか。

教育長:来年度は最初ということもあり、南三陸教育事務所管内のみの設定を考えていますが、「地域採用枠」で採用された教員には10年程度その地域に勤務していただき、地域の方々とともに、その地域に根ざした教育に携わっていただきたい。将来的にはそうした教員の姿を見て育った子どもたちが、あいう先生になりたいという憧れを抱いて、またその地域に戻って教員になるという循環ができればと考えています。

知事:地域で育った子どもたちが、地域に戻って子どもたちを育てるというのは、地域の復興のためにもとても有効な手立てだと思います。

他には何か特徴的な取り組みはあるのですか。

教育長:「特別支援学校枠」の設定もその1つだと考えています。教員の異動については特別支援学校と普通の学校との間で相互に異動できるようにしておくことは残しておきつつ、専門性の高い先生方を積極的に受け入れていくことで特別支援学校の専門性を高めるとともに、県内全ての学校においても特別支援教育の更なる充実を図っていくというねらいです。

知事:なるほど。いい話を聴くことができました。教育長がおっしゃるように、地域に根ざした教育をベースに地域が活性化しつつ、また専門性を持った人材をより多く確保することもできれば、目に見える復興と相まって、宮城がますます豊かになっていく感じがします。

— ご自身が影響・感銘を受けた教師

教育長:これまでにご自身で影響や感銘を受けられた先生はいらっしゃいますか。

知事:小学校3・4年生のときの学級担任だった八幡先生です。

教育長:その先生のどのようなところが知事に影響を与え、今でも心に残られている部分ですか。

知事:書道の時間に、先生が、私が書いた習字を皆に見せて、「先生は長年教師をやっているからわかるが、こういう書き方

をする子は、将来ものすごく人の役に立つ立派な仕事をするか、ものすごく悪いことをするのかの、どちらかです」と言ったのです。

そのとき、先生が何を根拠におっしゃったのか、いまだにわかりませんが、それ以来「できれば、ものすごく人の役に立つ仕事をしたいな」と考えるようになりました。今、私が知事という仕事をしているのも、そのとき先生が話された言葉に影響を受けているところもあると思います。

教育長はいかがですか。影響や感銘を受けた先生はいらっしゃいますか。

教育長:記憶に間違いがなければ小学校5年生の時だったと思いますが、担任の鈴木先生です。

知事:教育長にとって、その先生はどんな存在なのですか?

教育長:どっしりとして、怖い感じもありましたが私たちのことをよく見てくれている先生でした。あるとき私は授業が始まってマンガ本を読んでいたことがあり、それを先生に見つかり、「あとで職員室に来るように」と言われました。

私は恥ずかしい気持ちと同時にどれだけ怒られるんだろうという思いで職員室に行ったのですが、先生は優しい口調で「お前は力があるのにもったいないぞ」と言ってくださいました。私に力があつたとは思えませんが、愛情と期待の伝わる言葉で、それに応えられる人になろうと思いました。今も心に残っている一言です。

— 宮城県の教育の現状と教員が果たしている役割

知事:宮城の教育が、1人でも多くの子どもたちにとって、我々がもらえたような感動と幸せを与えるようなものであれば、大きな喜びですね。

教育長:そのために、現場の教員は昼夜を問わず、本当に頑張っています。

知事:そう思います。以前、県教委主催の「みやぎ高校生フォーラム」に出席した際、自分の言葉で将来を真剣に考えて発言している高校生に接し、「宮城の子どもたちはしっかり成長している」と感じました。小中高と成長する過程で、先生方との学びや部活動等の関わりを積み重ねる中で、子どもたちの心に火がついたのだと思います。子どもたちの成長に関わっていただいた全ての先生方への感謝の念を禁じ得ません。

教師という仕事は、子どもたちを成長させることはもちろん、そのことで自身も成長できる本当に魅力的な仕事ですね。

— 宮城県の教員志願者へのメッセージ(エール)

教育長:宮城の教員を志す志願者に向けて、知事からメッセージをお願いします。

知事:まず、全ての子どもたちの存在を大切に、心身共に若々しさにあふれ、優しさと善良さを兼ね備えた方に、ぜひ宮城の教員を目指していただきたいですね。また、地域とともに教育に取り組むためにも、積極的に様々な人と関わり、よりよい人間関係を築く力と社会性も養っていただきたい。さらには、教員となった後も、常に学び続ける姿勢を持ち、学校を、宮城県全体の教育を支える力になっていただきたいと思っています。

教育長:ありがとうございます。教育委員会としても児童生徒はもとより、広く地域住民や保護者から信頼され、尊敬されるにふさわしい高い倫理観と学校組織の一員としての責任感のある志の高い教員を人物重視で採用していくと考えています。学校現場には多様で複雑な課題がたくさんありますが、これからも知事と認識を共有しながら、宮城の教育がより充実したものになるように努力していきたいと思っています。

今後ともよろしく願いいたします。



宮城県知事
村井 嘉浩(むらい よしひろ)

昭和35年生まれ。防衛大学校卒業後、陸上自衛隊任官。幹部候補生学校を経て、陸上自衛隊東北方面航空隊に配属。その後一等陸尉で自衛隊退職。平成4年松下政経塾入塾。平成7年4月宮城県議会議員初当選。以来県議三期10年勤める。平成17年10月に宮城県知事選挙に出馬し当選。現在三期目。

宮城県教育委員会教育長
高橋 仁(たかはし ひとし)

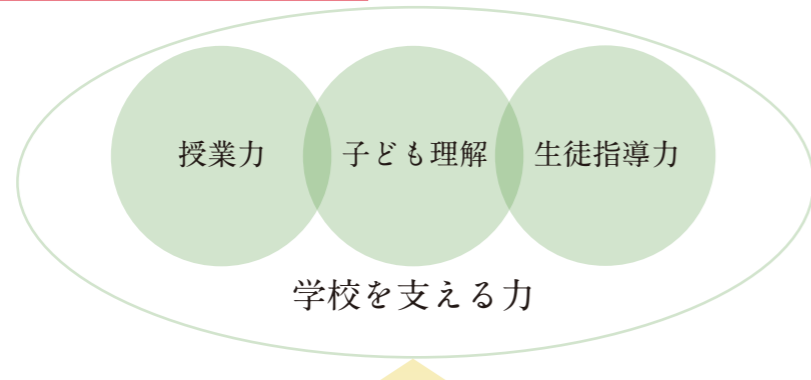
昭和31年生まれ。東北学院大卒業後、宮城県公立学校教員採用。宮城県迫桜高等学校教頭、宮城県教育庁教職員課課長補佐、宮城県角田高等学校校長、宮城県教育庁高校教育課長、教育次長などを経て平成24年4月より宮城県教育委員会教育長。現在二期目。

みやぎの教員に求められる資質・能力

みやぎの教員には、教員個人の持つ教育への情熱や自己研鑽力、たくましく豊かな人間性を基盤として、職場での各種研修によって、授業力や子ども理解、生徒指導力などの実践力をより確かなものにすることが期待されています。

✔もっと知りたい！→(<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/ky-teacher/shishitsu.html>)

学校の教育力を構成する実践力



実践力の基盤となる意欲・人間性等

教育への情熱

自己研鑽力

たくましく豊かな人間性

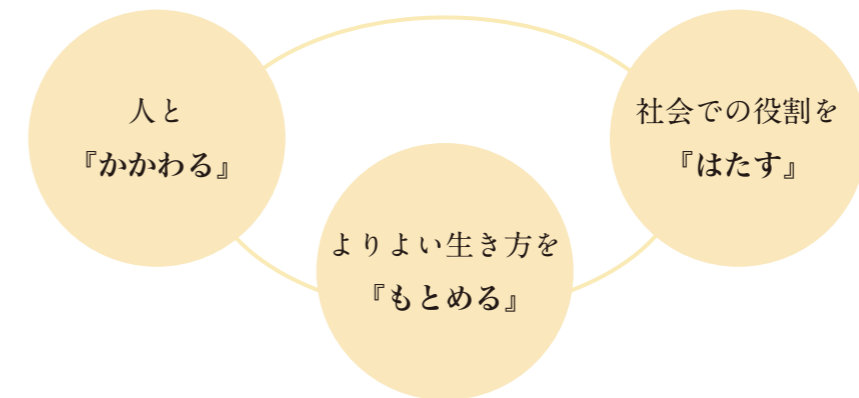


みやぎの「志教育」・研修制度

みやぎの「志教育」とは

「志教育」として、小・中・高等学校の全時期を通じて、人や社会とかがわる中で社会性や勤労観を養い、集団や社会の中で果たすべき自己の役割を考えさせながら、将来の社会人としてのよりよい生き方を主体的に求めさせていく教育を行っています。

✔もっと知りたい！→(<http://www.pref.miyagi.jp/site/gikyoku-kkz/>)



学び続ける教員を支援する研修制度

宮城県の教員として採用された方には、子どもたちに最適の学びを提供するため、生涯に渡って学び続けることを求めています。

学び続ける教員を支援するため、宮城県では、教員の教職経験段階に応じた研修体系を構築し、求められる資質能力を向上させることができるよう様々な研修を実施しています。

✔もっと知りたい！→(<http://www.edu-c.pref.miyagi.jp/training/guide/>)

基本研修

教職経験と職能に応じて、教員研修の節目ごとの適切な研修の機会としての教員研修の基盤となる研修

初任者研修、5年・10年・20年経験者研修、主任・主幹教諭等研修、管理職研修、教育課程に関する研修

専門研修

基本研修を基盤とし、教科・科目、領域等の指導に必要な専門的知識・技能の向上を図る研修

教科等に関する研修、特別支援教育に関する研修、教育相談に関する研修、情報教育に関する研修

総合研修

教職に関する専門分野について深く研修し、時代の進展・変化等に応じた新しい教育内容・方法等を研修する派遣研修、先行的研究や今日の教育課題に関する研修等の課題研修等

大学院や企業等への派遣研修、県総合教育センターでの長期研修、国の研修機関への派遣研修

校内研修

教員一人一人の指導力を高め、学校が直面する様々な課題への対応を図るため、各学校が主体的に取り組む研修

授業研究、指導主事による訪問指導、OJT研修

CARRIER STORY

小学校 (2年生担任 福祉教育主任)

毎日が初任研、子どもと共に学び続ける。



安藤 美実子
平成28年4月～塩竈市立杉の入小学校 (教諭)

心に残った仕事

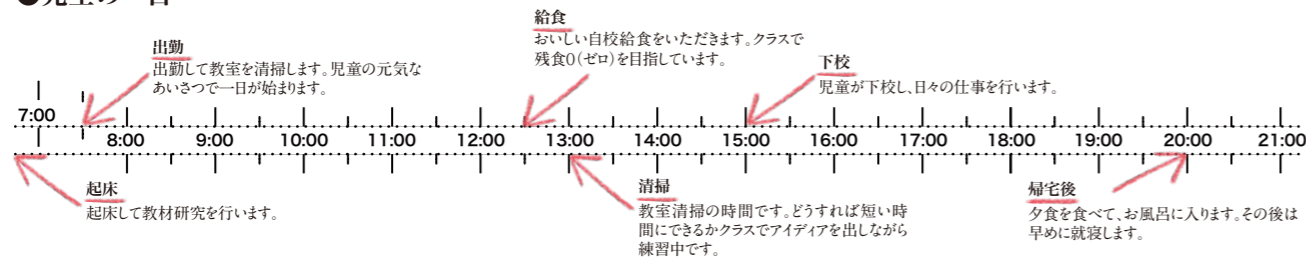
塩竈市の初任研で、市内の小中学生の代表がいじめについて考える「いじめNO!ディスカッション」にファシリテーターとして参加したことです。年齢の異なる子どもたちがいじめの予防や解決法について話し合い、協力して発表を作り上げる場面に立ち会いました。真剣に考える子どもたちの姿に私自身の考えを深めることができました。

これからの夢

全ての教科の授業力向上と留学経験を生かして外国語活動に関わること。



●先生の日



特別支援学校 (小学部6年生担任 情報教育部部長)

共に学び、共に成長する。



堤内 拓未
平成26年4月～宮城県立利府支援学校 (教諭)

心に残った仕事

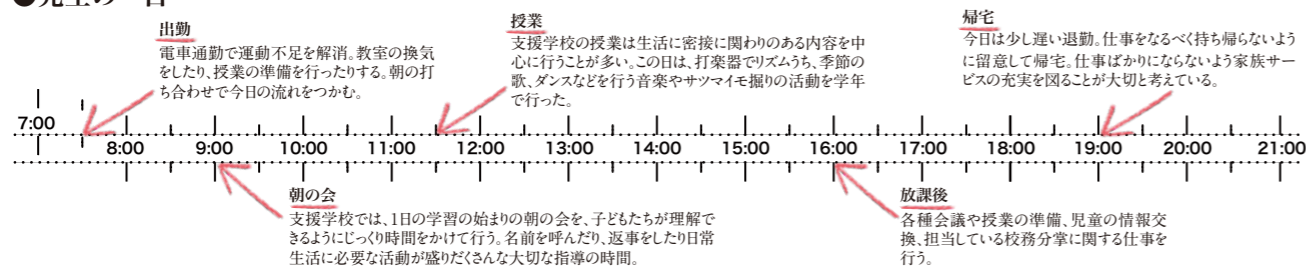
最も印象に残っている仕事は、支援学校に来て初めて受け持った子どもたちへの指導です。障害の重い子が多く、子どもたちとの意思疎通もうまくできない私でしたが、じっくり関わるうちに一人一人の感情が少しずつ分かるようになってきました。思いに沿った指導ができたときには、心からやりがいを感じました。また、命の大切さを教えてくれたのもその子どもたちでした。教師としての使命、責任感を改めて思い知った1年となりました。

これからの夢

仕事：教え子と同窓会で会い、成長を喜びたい。
プライベート：日本一周鉄道の旅!



●先生の日



中学校 (2年生担任 生徒会執行部 ソフトテニス部顧問)

情熱・笑顔・元気!



半澤 律子 (英語)
平成8年4月～気仙沼市立津谷中学校 (教諭)
平成11年4月～塩釜市立玉川中学校 (教諭)
平成20年4月～利府町立しらし台中学校 (教諭)

心に残った仕事

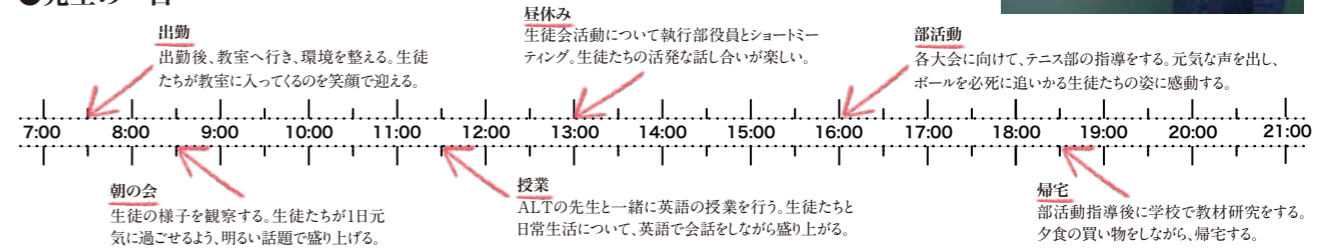
生徒たちと過ごす日々は、決して同じ日はなく、毎日がとても新鮮です。私が今までで最も印象に残っている仕事は、生徒たちと共に作り上げた「文化祭」です。その文化祭は生徒たちの「文化祭がしたい。」という声から始まったものでした。その夢や思いが形となって実現していくことを生徒と共に深く感動したことは、生涯決して忘れることはないでしょう。これからも、生徒たちと一緒に汗を流し、一緒に感動する姿勢を大切にしていきたいと思います。

これからの夢

仕事：生徒たちの夢や思いを共に実現する。
プライベート：家族(夫)とホノルルマラソンに出場して、42.195kmを完走する。



●先生の日



高等学校 (2年生担任 教務部 女子卓球部顧問)

教師の熱い想いで生徒の可能性を开花させる。



草陽介 (数学)
平成18年4月～株式会社日本航空インターナショナル
平成24年4月～千葉県立大網高等学校 (教諭)
平成26年4月～宮城県名取北高等学校 (教諭)

心に残った仕事

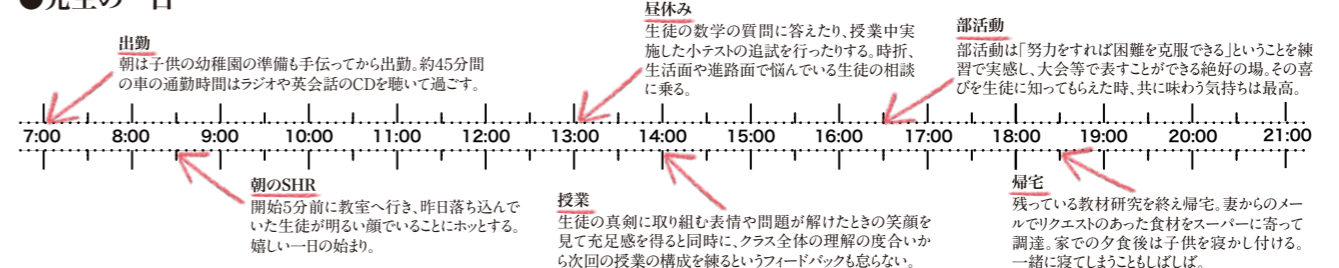
日常での励ましが生徒の背中を押し、勇気づけることができた時に大きな喜びを感じます。生徒は今の背丈で精一杯喜び、悩み、絶えず自分の道を探っています。その敏感な感性に響く言葉は、毎日コツコツと積み上げた日常の中で培われる信頼の中から生まれます。教師は大きな責任を伴いますが、生徒が目覚める瞬間に立ち会えることができる素晴らしい仕事です。これからもホームルーム、授業、部活動等あらゆる場面で、生徒の可能性が开花する瞬間を見つめて行きたいです。

これからの夢

仕事：生徒が大人になって再会した時にも覚えているような記憶に残る授業をすること。
プライベート：妻と子供(4歳と2歳の息子)を連れて大学時代に1年間留学していたサンフランシスコを案内したい。



●先生の日



熊本地震支援活動に赴いて

東日本大震災で支援をいただいた恩返しと思い、熊本地震支援活動に本県の教員2名を派遣し、被災経験を生かしながら、熊本県の教育復興に貢献しています。宮城県の教員は、県内のみならず、全国的な幅広い視野を持って活躍しています。

「支援のつながり 宮城・熊本」



南三陸町立志津川小学校 主幹教諭 仲松 晃

平成11年4月～ 宮城県白石市立白石第一小学校(教諭)
平成14年4月～ 宮城県気仙沼市立気仙沼小学校(教諭)
平成23年4月～ 宮城県本吉郡南三陸町立入谷小学校(教諭)
平成28年4月～ 宮城県本吉郡南三陸町立志津川小学校(主幹教諭)
平成28年6月～ 熊本県御船町立滝尾小学校へ派遣

熊本地震で大きな被害を受けた御船町立滝尾小学校に派遣され、6月から年度末までの10か月間、勤務することになりました。滝尾小学校は地震で通学路が通行できなくなり、子どもたちは近くの中学校の校舎を借りて勉強しています。毎日滝尾小学校の子どもたちと授業をしたり、熊本の先生方と一緒に教材研究をしたりしています。地震のために生活環境が大きく変わってしまっているにも関わらず、学習や行事に一生懸命取り組んでいる子どもたちの姿や、真剣に子どもたちに向き合っている先生方を見ると、胸が熱くなります。

私も気仙沼市の小学校で被災しました。宮城県での被災体験をもとに、自分が熊本の子どもたちにどんな支援ができるのかを考えながら指導にあたっています。今回、熊本で勤務することで、熊本の人たちのやさしさやたくましさに触れることができました。宮城も熊本もお互い励まし合いながら、復興に向けてますます頑張っていければと思います。

「子供たちと共に、一歩ずつ。」



10月21日付け 熊本日日新聞より

南三陸町立志津川中学校 養護教諭 遠藤 幸

平成22年4月～ 宮城県気仙沼市立新城小学校(養護教諭)
平成25年4月～ 宮城県気仙沼市立唐桑小学校(養護教諭)
平成26年4月～ 兵庫教育大学大学院へ研修派遣(～平成28年3月)
平成28年4月～ 宮城県本吉郡南三陸町立志津川中学校(養護教諭)
平成28年6月～ 熊本県御船町立小坂小学校へ派遣

新年度のスタートを切った4月。震度7の大地震が二度にわたって熊本県を襲いました。その後6月から、御船町の小学校に派遣され、子どもたちの心のケアに従事しました。学校の被災状況は厳しく、特に3～6年生は教室が使用できなくなり、特別教室で学校生活を送っていました。そのような環境の子どもたちに対し、同じように被災した宮城県も一歩ずつ前に進んでいっていることを伝え、心をほぐすリラクゼーションを行いました。自身の東日本大震災での経験や、その後兵庫教育大学大学院の長期研修で学んだことを織り交ぜながら、頑張っている熊本の子どもたちに前向きなメッセージを保健室から送り続けました。2学期には、校庭に仮設校舎が建ち、5月に予定されていた運動会も実施することができました。

「一歩ずつ。」一人一人歩幅もペースも違う子どもたち。養護教諭はその違いを尊重し、伴走することができる存在だと思っています。これからも子どもたちに精一杯のエールを笑顔で届けていきたいです。

「MIYAGI Style」による教科指導におけるICT活用の充実



現在、国では「教科指導におけるICT活用」を推進し、平成32年度より実施される次期学習指導要領においても、ICT機器を活用した学習を前提とした改訂が行われる見通しです。

宮城県では、「教科指導におけるICT活用」を推進するための方針として、MIYAGI Style(みやぎスタイル)を提案しています。MIYAGI StyleのMIYAGIには、宮城県からの提案であるという意味だけでなく、MIYAGI ICT Youth Approach Growing with Innovationの略として、「児童生徒のためのICTによる授業改善」を行うという思いが込められています。

MIYAGI Styleでは、「教員のICT活用指導力の向上」「ICT機器整備」「インフラ整備」を進めながら、発展的・段階的に展開

をしています。まずは、教員がICT機器を活用して一斉学習を行うVer.1からスタートし、その後、児童生徒のグループに1台、児童生徒一人1台での環境のVer.2、Ver.3へと発展させていきます。

MIYAGI Style Ver.1は、全ての授業をICT機器で行うわけではなく、既存の黒板等の教具と共存しながら、ICTの活用が効果的なところで用いることを目指します。例えば、教科書や資料集を示すときに、大きく投影したり、児童生徒の書いたノートやプリントを投影したりすることで、分かりやすく説明したり、簡単に考え方を共有したりします。また、これらによって、新たに児童生徒が主体的、協働的に学ぶ学習時間を確保し、授業改善に繋げていくことを目的としています。

※MIYAGI Styleに関する情報は、県教育委員会のホームページやYouTubeに公開しているプロモーションビデオ「MIYAGI Style/スズメ」をご覧ください。
URL <http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/kyou-kikaku/ict-ms.html>

ICT機器を取り入れた授業を 実践している先生に聞いてみました。

ICT機器を取り入れた授業を始めたきっかけを教えてください。

家庭科の授業を実践するうえで、食物や被服実習、また、言葉だけでは伝えにくい内容に対して、効果的かつ効率的に授業ができないかと考えており、ICT研修会やNHK番組「TED」のプレゼンテーションなどからヒントを得て授業に取り入れられました。

授業にICT機器を取り入れるのに工夫されていることを教えてください。

プロジェクタとパソコンとの有線の方法は以前から活用していましたが、モバイルなどを使用し、無線で操作できることを知り、周辺機器の環境に慣れるよう繰り返し活用してきました。

授業にICT機器を取り入れて、先生の授業はどのように変わりましたか？

動画コンテンツや静止画像の活用、無線操作で手元の動きをスクリーンに投影しながらの説明、また、模範となる生徒の動きや完成作品などをLIVEで紹介することができ、授業の内容が幅広くなりました。

生徒の学びには、どのような変化がおきましたか？

生徒は、授業内容が言葉だけで伝える以上にイメージしやすく、課題や実験・実習の作業を把握できるようになりました。また、生徒同士が課題を共有することでディスカッションが深まり、班の発表に活用したりととても効果がありました。まだ、現段階では試行錯誤のため、今後も継続して研鑽を積んでいきたいと考えています。



宮城県宮城第一高等学校 横山 植(家庭科)

平成4年4月～ 宮城県泉館山高等学校(教諭)
平成8年4月～ 宮城県農業高等学校(教諭)
平成14年4月～ 宮城県泉松陵高等学校(教諭)
平成24年4月～ 宮城県美田園高等学校(教諭)
平成28年4月～ 宮城県宮城第一高等学校(教諭)

長年、プロジェクタ等を利用した一斉授業に取り組んで来ましたが、今年度より調理実習でICT機器を取り入れた実践を行っています。



平成30年度 教員採用選考の変更について

(平成29年度実施)

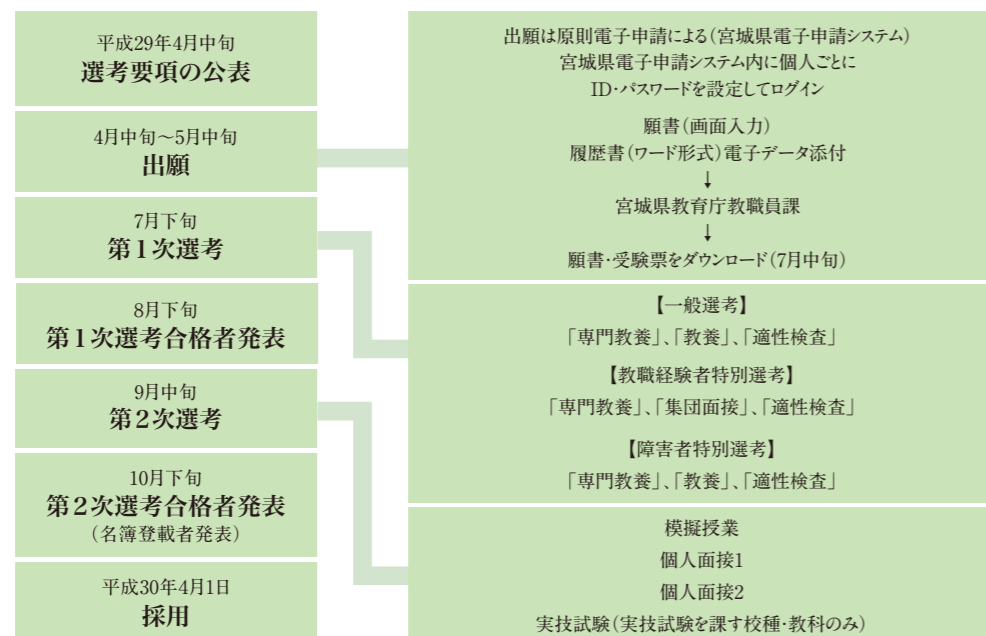
宮城県の教員採用候補者選考が変わります! 詳細は平成29年4月中旬に公表される選考要項で確認してください。

✔もっと知りたい!→(<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/ky-teacher/h29kyosai.html>)

6つの新たな取組み	1	「地域採用枠」を新設 (小学校のみ) →南三陸教育事務所管内において採用後 10 年間程度勤務できる方を対象とします。	2	「特別支援学校枠」を新設 (小学校のみ) →小学校教諭と特別支援学校教諭の両方の免許を持ち、採用後は主に特別支援学校へ勤務できる方を対象とします。
	3	「小学校英語採用枠」を新設 →小学校教諭及び中学校、高等学校いずれかの外国語(英語)教諭の両方の免許を持っている方を対象とします。	4	英語志願者に対して資格所有を義務づけ →中学校「英語」、高等学校「英語」を志願する方に対し、以下のいずれかの資格保有を求めます。平成 32 年度実施分から義務づけとし、来年度から 3 年間は「保有が望ましい」とする移行期間とします。 ①英語検定 2 級以上 ②TOEIC550 点以上 ③TOEFL (iBT) 60 点以上 ④国連英検 B 級以上
	5	複数免許保有の促進 →高校「地理歴史」「公民」の志願する方に対し、「地理歴史」「公民」両方の教科の免許状の所有を求めます。平成 32 年度実施分から義務づけとし、来年度から 3 年間は「保有が望ましい」とする移行期間とします。	6	高等学校「情報」の採用選考実施 →高校「情報」の志願者については、「情報」の普通免許状に加え、他の教科の高等学校教諭普通免許状を有することを受験資格とします。
5つの変更点	従来		平成29年度実施から	
	1	第1次選考 筆記試験：記述式	マークシート方式に変更 →全ての記述試験をマークシートに変更することから、今まで実施していた小論文での試験は廃止します。	
	2	第1次選考 筆記試験：教職教養 →教育法規、教育史、教育心理学等を出題	教職教養を「教養」とし、出題内容を変更 →今までの教育法規等に加え、現代が抱える教育問題や現場に必要な知識、主要5教科に関わる知識等幅広く出題します。	
	3	第1次選考 実技試験を実施する教科あり →実技試験のある教科については、東京会場での実施不可	実技試験は全て第2次選考で実施 →全ての学校種、教科・科目について第1次選考を東京会場でも実施します。	
	4	第1次選考 実技試験：小学校水泳	自己申告制に変更 →小学校の「水泳」の実技を廃止し、出願の際に、泳力について自己申告制とします。	
	5	第2次選考 模擬授業： 模擬授業の課題選択不可 指導案作成 (50 分) + 模擬授業 (30 分)	第2次選考 模擬授業： 県教委が示す複数の課題から自ら課題選択可 模擬授業 (30 分) (指導案作成無し)	

平成30年度(平成29年度実施) 宮城県公立学校教員採用候補者選考

出願から採用までのスケジュール



過去の選考結果・Q&A

平成29年度選考(平成28年度実施)の結果

	小学校	中学校							中学校・高等学校				
		国語	社会	数学	理科	技術	英語	計	保体	音楽	美術	家庭	計
1次受験者	919	104	224	176	93	22	147	766	321	66	59	34	480
2次受験者	529	40	34	37	37	14	39	201	53	23	16	18	110
名簿登載者	271	21	18	22	21	7	22	111	35	12	6	12	65

	高等学校											養護教諭	栄養教諭A	栄養教諭B	合計	
	国語	公民	地歴	数学	理科	農業	水産	工業	商業	英語	福祉					計
1次受験者	72	45	88	107	114	13	1	43	36	87	11	617	232	11	37	3,062
2次受験者	27	18	18	26	38	8	1	18	12	33	6	205	39	10	7	1,101
名簿登載者	14	6	4	13	8	3	1	7	6	15	2	79	31	8	4	569

Q&A

Q 教員採用選考試験関係の情報はどのようにしたら手に入れることができますか?
 A 宮城県教育庁教職員課のホームページをご覧ください。最新の情報をご覧いただけます。
 (<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/ky-teacher/>)

Q 出願方法について教えてください。
 A 出願は原則として電子申請で行います。宮城県教育庁教職員課のホームページから「電子申請・届出メニュー」画面に入り出願することができます。

Q 宮城県以外で試験を受けられるのですか?
 A 第1次選考は、「栄養教諭A」以外の全ての校種・教科について東京会場で受験することができます。詳細は選考要項で確認ください。

Q 福利厚生はどうなっていますか?
 A 採用と同時に公立学校共済組合員となり、健康保険・年金制度はもちろん、次のような制度を利用できます。
 給付制度：病気、災害、結婚、出産時の給付金が受けられます。
 貸付制度：一般、教育、住宅、結婚等の貸付が受けられます。
 検診事業：人間ドックや各種がん検診などを受診できます。
 その他、健康づくりのためのセミナーなど各種事業があります。

Q 採用後の給与について教えてください。
 A

区分	小・中学校	県立高校・県立特別支援学校
大学院卒	228,200 円	228,200 円
大学卒	206,000 円	206,000 円
短大卒	183,400 円	180,700 円

(平成28年4月1日現在)

前歴加算：民間企業等における職歴がある場合には、この初任給に一定の基準による加算があります。
 諸手当：教職調整額、義務教育等教員特別手当、扶養手当、地域手当、住居手当、通勤手当、期末・勤勉手当などがそれぞれの要件により支給されます。

Q 講師として働きたいのですが、手続き等を教えてください。
 A 教員免許状があれば、所有する免許状に応じて小・中・高・特別支援学校の講師として働くことができます。常勤講師は、欠員、産前・産後休暇、育児休業、病気休暇などにより補充が必要となったとき、その代替者として勤務します。非常勤講師は、特定の時間のみ勤務するもので、時間給が支給されます。講師の任用希望は、電子申請または書面で随時受け付けておりますので、県教職員課までお問い合わせください。